

## は じ め に

本書は、1991年2月1日（金）鹿児島大学本部棟第3会議室において、鹿児島大学南太平洋海域研究センターが主催したシンポジウム「東南アジアのイスラーム」の記録である。このシンポジウムは、文部省科学研究費重点領域研究「イスラームの都市性」K班「宗教・民族運動と都市」（代表者：中村光男）およびV班「東南アジア都市におけるイスラームの制度化」（代表者：西野節男）の共催のもとに行われた。

この公開シンポジウムは、湾岸戦争の最中、一般に近寄り難いと思われているイスラーム世界を地理的に近い東南アジアから接近して考えようという趣旨で企画した。報告者・コメンテーターのほとんどが30代後半の活躍盛りの第一級の研究者で、ほかに討論者として県外から9人の各分野・地域の研究者に参加していただいた。当日は、平日午後にもかかわらず、100名近い出席者をえて4時間におよぶ報告・コメント、討議が行われた。そして、翌日このシンポジウムの成果を踏まえて、南太平洋海域研究センター会議室にて、ポスト・シンポジウム「イスラーム世界のなかの東南アジア」が行われた。2日間の議論によって、東南アジア研究とイスラーム研究という従来あまり深く結びつけて考えられなかったテーマが、ひとつになって議論する機会をえたことは、非常に有意義なことであった。これを契機としてさらなる議論が行われることを願うものである。

シンポジウム開催にいたるまで、多くの方々のご協力をいただいた。報告・コメント・討論に参加してくださった先生方、井形昭弘鹿児島大学学長、田川日出夫先生をはじめとする研究委員会の先生方、兼務教官の根建心具、皆村武一両先生、そして寺師慎一センター長をはじめとする南太平洋海域研究センターの方々に深く感謝申し上げます。

1991年9月

編者

## シンポジウム出席者

- 石井 和子 (東京外国語大学外国語学部)  
黒田 壽郎 (国際大学中東研究所)  
黒田美代子 (国際大学中東研究所)  
桑原 季雄 (鹿児島大学教養部)  
関本 照夫 (東京大学東洋文化研究所)  
床呂 郁哉 (東京大学大学院)  
利光 正文 (別府大学文学部)  
富沢 寿勇 (静岡県立大学国際関係学部)  
中村緋沙子 (学習院大学法学部)  
中村 光男 (千葉大学文学部)  
西野 節男 (東京大学教育学部)  
西村 重夫 (九州大学教育学部)  
早瀬 晋三 (鹿児島大学教養部)  
八尾師 誠 (東京外国語大学外国語学部)  
宮坂 正昭 (東京都立赤坂高校)  
宮原 辰夫 (慶応大学大学院)